

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202320		
法人名	有限会社グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームやみね		
所在地	長崎県佐世保市矢峰町82-1		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	令和3年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和2年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気をもとに、集団生活の中でも利用者個人を尊重したケアを行い、管理者、主任を中心に、利用者本位の生活が送れる様に支援を心がけている。</p> <p>家庭的な雰囲気を念頭に、施設として内外部の清潔を保ち、感染症の予防に努めると共に、食材料にもこだわりを持ち栄養、見た目からも満足できるような食事の提供をしている。</p> <p>かかりつけ医だけでなく必要に応じた訪問診療を取り入れている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅地の中に位置している。現在、利用者の平均年齢が90歳を超え車椅子利用が増えている中で、リビングでは計算ドリルや小物づくりの他、自身で整髪や化粧をするなど身だしなみを整えたり、職員と楽し気に話すなど活気のある光景がある。職員は利用者話し掛けの際に、言葉や内容を統一しており、混乱が生じないように丁寧なケアに努めている。利用者の生活歴の把握と日常の様子から、本人の得意分野を支援内容に取り入れ、その人らしさがみられる支援は事業所の特長である。利用者の意欲につながる支援は、在宅での生活に近いものであり、生き生きとした表情に結びついている。今年度は新型コロナウイルスの影響で活動に制約がある中、利用者の様子はそれを感じさせない笑顔あふれる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの際にその日出勤している職員で「基本理念・職員の心得・スタッフの目標」を唱和し、そのことを心にとめ、職員が介護にあたっている。職員同志が共有し、初心を忘れない様協力しながら実践につなげている。	基本理念・職員の心得・スタッフの目標は毎朝申し送りの際に唱和し、全職員に浸透している。基本理念を各ユニットの入口から正面に見える位置に掲げ、常に確認できる。利用者職員ともに常に笑顔や会話があり、利用者にとって自宅での生活の延長となるよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や掃除当番など地域の一員として事業所で取り組んでいる。町内会に入り、地域の行事、清掃活動にも参加している。今年度はコロナウイルスの影響もあり、地域の祭りなどなかったが、例年は利用者と作品を作り展示している	自治会に加入しており、昨年までは地域の祭りや町内清掃、小学生との交流等があった。今年度は新型コロナウイルスの影響で外部との接触が出来ず、民生委員との繋がりのみとなっている。地域住民から広告紙製のごみ箱や食器の提供を受ける等、これまでの付き合いが活きている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議などにおいて、民生委員、町内の役員と話し合いホームを開放し地域の方がいつでも出入りできるよう取り組んでいる。地域行事に参加し、作品を展示することで認知症の理解を求め地域貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、家族代表などの意見を取り入れ、サービス向上に向けて介護へ取り組んでいる。2か月に1回運営推進会議を開催し、2か月間のホームの状況を報告し、互いによかったことや困ったことや気づいたこと等の意見が出た際は、職員会議でも議題としてあげて対応している	新型コロナウイルスの影響により、令和2年3月以降の運営推進会議は書面開催となっている。近況を中心に議事録を作成し、規定メンバーに議事録を発送し意見を得ている他、民生委員からは、気がかけて電話連絡がある。新たな対応が虐待にあたらぬか等、議題にあげ意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議において地域包括センターや市の長寿社会課の方々に実情を話し、いつでもそうだんできる様、環境を整えている。メールや電話も用いて、災害時などのやり取りや運営について尋ね連携をとっている。利用者の待機状況なども相談している	行政とは、運営における手続きや不明点をFAXで問い合わせる等、協力関係を築いている。新型コロナウイルス感染予防対策の状況確認の他、行政からの情報を得ている。事業所は佐世保市グループホーム連絡協議会のグループ長を務め、行政との情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、その後ホームで職員とともに内部研修を行なっている。推進会議においても身体拘束防止委員会への報告を行ない、課題がある際は再度職員会議で議題としてあげ、早期に対応して、拘束がないケアに取り組んでいる。	運営推進会議のメンバーで身体拘束防止委員会を組織している。職員会議で出した課題を検討し、運営推進会議の議事録に記載することで報告している。職員会議で勉強会を開催し、長崎県の虐待チェックリストを取組んでいる。長崎県が主催する研修をリモートにて複数の職員で受講している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、ホームでの内部研修も行うことで日頃の介護についての話し合いを行ない虐待防止につなげている。年に数回は内部研修を通じ、虐待防止に努めている。事業所内で虐待が見過ごされていないか、定期的にチェックリストを用いて自己評価するとともに、ヒヤリハット、事故報告書の内容からも読み解くように心がけ早期発見、早期対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修後に、施設内でも職員に伝達し学ぶ機会を設けている。入居者その人の必要性を理解して、活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書を読みながら口頭で説明するが、いつでも疑問や不安があった際は尋ねられる環境や関係をつくり、十分に納得できるよう対応をしている。入居時にはご家族へ十分な説明を行ない、安心していただけるよう努めている。退居時や契約変更時にも、必ず連絡を入れ書面とともに説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置し、ご家族の意見を反映した介護に当たる努力をしている。また問題が発生した場合には職員会議で検討するとともに、お便りや推進会議でも報告している。	新型コロナウイルスの影響で、家族会が中止となり、家族が面会する機会は減少している。来訪時には要望等を聞き取るよう努めている。ケアプランの変更時は家族に相談した上で、個人記録に記入している。家族には便りを送ることを主として近況を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の代表者も出席するミーティングを開催し、管理者は近況を全職員に伝えている。職員全員が持ち回りで司会と書記を担当し、一人一人が発言しやすい場を作っている。必要時には、代表者や管理者が個別に面談を行いホーム運営の発展に努めている	職員の意見は、月2回のミーティング時に募っている。ミーティングの出席は常勤職員全員であるが、非常勤職員には職員会議録を回覧して情報を共有している。車椅子の利用者が増えたことから、車椅子対応車両やトイレカーテン設置など、車椅子の利用者の活動をサポートとする備品購入に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の介護の力を高めるように、研修を受ける機会を提案し、働きながら学べる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議委員会での研修など同業者との交流の機会を作っている。個々の特性を生かし、研修の参加を促し介護のキャリアアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との研修会イベントへの参加を促し、交流を深めサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族などの電話や問い合わせには落ち着いて積極的に応対し、安心感のある雰囲気作りに努めている。見学の際にはご本人の同席も願いご本人の気持ちを大切に相談を受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望を聞いたうえで本人に何が出来るか、出来そうなのかを伝え今後の生活が本人、家族にとって前向きであるよう支援を進めていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がどんなサービスを必要としているのか面談時に話を聞き、類似のサービスの話も含め説明し、検討していただき、安心してサービスを受けていただける様努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を目上の者として敬愛し自立支援を目指して暮らしを共にする者として支えていくよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と定期的に連絡を取り、本人の状況を伝え、本人、家族の思いを大切にしながら今後のケアについて検討し決定していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	便りや電話等は職員が間に入り、情報共有ができるよう、通常は、居室にてゆっくりと過ごして頂ける工夫をしているが、今年はコロナ渦で面会も外出も自粛している。	利用開始時に本人・家族から、生活歴や馴染みに関する情報を収集し、職員は情報を基に支援に取り組んでいる。今年は、新型コロナウイルスの影響で、行きつけの店等への外出が出来ない状態が続いているが、家族と電話や手紙、キーパーソンと玄関で面会など工夫している。現在、ネットを利用したオンラインでの面会を計画している。	現在、ビデオ通話を利用できるよう、通信環境の整備を計画している。今後、遠方の家族も含め、オンラインでの面会が増えることで、これまで以上に利用者と馴染みの人との関係継続に繋がることに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を個人として尊重し、利用者同士の交流を見守ったり、必要な時は職員が間に入り利用者同士の交流の場を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後にも電話や手紙で安否を尋ねたりお見舞いに伺ったり、家族の相談に応じたりなど、継続的なお付き合いを心かけている。亡くなられた際は、少しでも家族の支えになればと思い、参列させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、新たな情報があれば追記し、本人の思いに添える様努めている。意思表示が難しい利用者には表情、家族、スタッフ全員で話し合い本人本位に検討している	食事はホールで全員で摂ることにより、孤立しないように心掛けている。職員が利用者と1対1で話し、思いを把握するよう努めている。思いや意向を把握したら、介護記録に記載すると共にケアマネージャーに情報を提供し、アセスメントに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や家族からの情報収集等から生活歴や生活環境をアセスメントし把握に努めている。昔の話を聞いたりして、その方に合った方法でサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、介護記録、他職種者の助言等をスタッフ全体で共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今現在の課題を本人や家族と話し合い介護計画を作成している。毎日のケアチェック表にてケアプランの実施状況を把握し、担当者会議で達成度を確認して、次のステップにつなげている	入居時に本人の生活歴や現状を聞き取り、1ヶ月の暫定ケアプランを作成している。その後サービス担当者会議を通じて介護ケアチェック表を作成し、毎月のミーティングで検討している。ミーティングの2回に1回はケアカンファレンスを入れ、現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は特記事項を設け一目で見ても理解できる工夫をしている。介護計画の見直しにも活用できるようにケアチェック表などとも連動させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望に合わせた受診助介、買い物支援や、OTリハビリにも取り組んでいる。訪問による理美容、口腔ケア等を取り入れ、一人一人を支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが地域で安心して暮らしていけるよう家族や民生委員の協力を得ながら地域の行事等に参加し安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。地区清掃、回覧板、公民館祭りの参加、防火訓練への声掛け、ボランティアの方の琴演奏、クリスマス会に学生さんの参加など地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の意向に沿っている。それぞれのかかりつけ医と情報を共有し適切な医療を受けられる様支援している。	かかりつけ医の受診は原則家族が対応する他、診療科によっては職員が同行している。受診結果は都度家族へ報告すると共に、職員間で情報を共有している。協力医療機関は居宅療養管理指導を行っており、かかりつけ医の処置を確認し、適切な医療を受けられる環境を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者である看護職員に毎日のバイタルや気づき体調を報告し、適切な処置や介助を行っている。また、週1回、医療連携の看護師が来訪し、連携をとり支援に当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院関係者や家族より情報を得て、共有できるようにしている。退院の際は家族と話し合い、ホーム内でカンファレンスを早期に行い安心してホームに戻れるように環境づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居開始時に終末期の看取りについて本人と家族の意向を聞き、事前に確認書を作成しているが重度化した場合は改めて、家族、主治医、管理者、看護師、介護スタッフ等と話し合い説明しながら支援に取り組んでいる。	利用開始時に、重度化した場合の対応に係る指針と終末期の看取りについての事前確認書の説明と同意を家族に行っている。看取りの段階に入った時点で、主治医が家族の意向を聞き、事業所としての体制を検討している。新型コロナ禍にあっても家族が最期まで付き添うことができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、職員は研修等に参加し、内部研修を行い対応できるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災訓練は年1回、マニュアルに沿って行っている。地域のハザードマップの確認やスマホへの登録もできている。災害に備えた物品の備蓄、非常持ち出し品の職員への周知もできている	年2回、火災訓練を実施し、地域連携がある。ハザードマップで土砂災害警戒区域に指定されたため、防災計画を見直している。実際に台風の際、1階の利用者全員が2階に避難したことがある。「土砂災害に関する避難確保計画」を作成し、行政に提出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を重んじ言葉かけを考え、プライバシーを損ねない対応をするように心がけている。	理念で、利用者の人格や個性の尊重と自分らしさの支援を謳っている。職員は理念の具現化として、言葉掛けや接し方など注意を払っている。ポータブルトイレやパッド類の保管等、羞恥心に配慮している。個人情報の取扱いや写真掲載の同意を得ている。書類は事務所で管理し、職員の守秘義務の周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いをよく聞いて希望に添えるよう働きかけを行ない、意思表示が難しい人には、表情や反応でくみ取り 利用者さんが気兼ねなく自分の気持ちを表現できるような雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとって無理をすることはせずに、利用者が自分のペースで今したい事を優先してできるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の来訪にて、その人に合ったヘアスタイルの支援をしている。毛染めやパーマを希望される時は、家族の協力を受けている。職員は、おしゃれを楽しんでいただけるよう季節に合った気配りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全量摂取されて、食事を楽しみにしている。「美味しかった。」など言葉が聞けることが多い。 職員と一緒に、今できる能力での準備や片付けをされている。	調理専門の職員が、利用者の嗜好や旬の食材を用いた献立を作成している。食事の量は、利用者毎に食べ切れるよう提供している他、少し濃いめの味付けで、全量摂取で満足感を得られるよう工夫している。下ごしらえや片付けを行う利用者もいる。職員も食卓を囲み、家庭的で楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にあった量の提供。体調に合わせて、全量摂取できる様に、医師や看護師、歯科医と連携を取りながら食べやすい形態を提供している。 水分量もいろいろな工夫を職員で考え、実施している。声かけを、適度に行うことで食事を楽しく摂れるような環境を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアできる方には毎食後の口腔ケアの声かけを行ない、自分で難しい方は、付き添いできるところまでをお願いし、その後に支援をしている。自力でできない利用者さんには、口腔内を清潔にしたり、歯間ブラシやその人にあった道具を使い清潔保持に努めている。定期的な歯科医による口腔ケアも受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導で声掛けを行ない、出来るだけ失敗をしないよう自立に向けた支援を行なっている	日中はトイレで座位による排泄支援に取り組んでいる。支援状況は排泄チェック表で管理し情報を共有している。職員は、利用者が少しでも自力で排泄が行えるよう、支援内容を検討している。意思を示せない利用者には、時間や仕草をみて声をかけている。利用者の不安を解消し、スムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取った料理を提供し、水分チェックを行ない、毎日の体操を心がけ、自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じてあせがらず、ゆっくりと入浴できる様に支援をしている。	週2回入浴日である。家庭での入浴方法を聞き取り、可能な限り引き継いで同じような時間や入浴方法となるよう心掛けている。同性介助を原則としており、利用者にとっては安心感がある。浴槽に浸かったり、職員との会話を楽しみながら、心地よく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操などで体を動かし、夜間は、テレビの音を小さくしたり、照明を落としたりして環境を整えている。不眠時は、状態を観察し気ままに過ごせるように見守りや声掛けをし安心してもらえるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の薬剤情報をまとめて見やすい場所に設置し内容を全職員が把握できるようにしている。服薬は2重、3重のチェックを行ない誤薬がないように気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに出来る事を行なってもらっている。おやつ時には、ホットケーキ、たこ焼き等を焼いてもらったりして楽しんでいる。コーヒーが好きな人には、おやつ時や希望時に差し上げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一昨年は、花見や敬老会の食事、散歩に出かけたりもしていたが今年はコロナ渦で外出の支援が出来なかった。	例年は、初詣、敬老会、花見、公民館祭りなど季節楽しんだり、地域住民との交流機会を設けたり、日常的な外出も多かった。現在は新型コロナウイルス感染予防の観点から外出を制限している。その中でも、安全に配慮しながら近所の散歩を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方は、お小遣い程度もっておられる。無理な方はホーム事務所で管理している。必要なものは購入できるように希望を聞き支払いは本人にもしてもらおうようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に携帯電話を持っている人もおり、自由に使えるようにしている。事務所でも本人希望時、即対応できるようにしている。手紙は届いたら本人にすぐ渡せるようにしている。希望時、便箋、ハガキ、切手などの提供、投函の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はバリアフリーで手すりは動きやすい位置に取り付けている。TVやCDの音量を調節したり、カーテンは2重にし光の刺激を和らげている。においや空気のとよみがないように換気にも気を配っている。季節の花を飾ったり、季節に応じた貼り絵をし居心地よく過ごせるように工夫し、家庭的な雰囲気作りを大事にしている。	ゆったりとしたリビングは、利用者が思い思いの場所でテーブルを囲みながら、計算ドリルや小物づくりなど活動しながら過ごす様子が窺える。ホールからは庭の植木類が見えており、季節感を味わえる環境である。利用者が快適に過ごせるよう職員は掃除を行い、感染予防の対策も徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイス、テーブルをホールや廊下に置き、一人でも、また気の合う者同士でも、思い思いに自由に過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に、使い慣れた物や好みのものを自由に持参してもらい、居心地よく過ごして頂けるように個別性のあるお部屋づくりを心掛けている。	利用者が事業所での生活に馴染めるよう、持ち込み品や飾り付けは自由である。ベッドやタンス類の位置、家族写真や趣味の小物、化粧品などは、利用者の活動を尊重している。各居室個性豊かで、在宅時の環境に近づけるよう、家族と共に取組んでいる。職員が換気と清掃を行い、居心地よい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、それぞれの目線に合った位置に表札をかかげ、共有スペースは、広々とした空間を作り、時計やカレンダーは見やすい位置に設置している。トイレや浴室も矢印をつけ、自由に安全に生活が送れるように工夫している。		